

ドクター通信

16

老人性白内障について

市立総合病院眼科医長 三上規

白内障とはどんな病気なのか、より正しく理解していただくため、まず目の仕組みを探ってみましょう。

目の構造はカメラを思い浮かべると簡単に理解できます。光の量を調節する絞りの役目をするのが虹彩、フィルムにあたるのが網膜で、レンズの役目は角膜(黒目)と水晶体がします。水晶体は直径一センチほどの小さなレンズで、角膜とともに光を通過させ、網膜に像を結ぶ働きをしています。

白内障とは、このレンズの役目を果たしている水晶体が濁る病気です。外傷性、糖尿病性、先天性等がありますが、最も多いのは老人性のもので、本来透明であるはずの水晶体が、加齢とともに白く濁り、ついには光を透過できなくなって視力障害を引き起こすのです。

原因と症状

老人性白内障の原因は確定されていませんが、老齢化とともに水晶体のたんぱく質に構造変

化が起きて混濁するといわれ、老化現象の一つとされています。六十歳代で約七〇%、七十歳代では約九〇%の人がかかる病気なので、医師に白内障ですと言われても驚くことはありません。

白内障は、症状が進むにつれて物の識別がだんだん困難になります。ただ、ほかの病気でも同じような症状が現れることがあります。ですから、医師から正確に診断を受ける必要があります。

手術で視力は回復

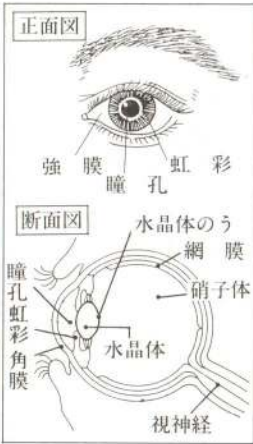
白内障の場合、予防、治療に有効な薬はほとんどなく、食事療法も効果がありません。でも心配はいりません。最近では手術の進歩が目覚ましく、より安全な手術手技が生み出され、高い成功率を収めています。

そのため現在では、手術が安全で効果的な治療法として一般化しています。手術では、混濁した水晶体を摘出します。すると目の中のレンズがなくな

り焦点が合わなくなりやすくなります。替わりのレンズが必要となります。この代替レンズとしては、白内障用眼鏡、コンタクトレンズ、眼内レンズの三種類ありますが、この中で最も水晶体に近いのは眼内レンズで、自覚的にほぼ白内障にかかる前の状態に戻ります。

眼内レンズは、プラスチック製で直径六〜七ミリ。当院では、六年前からこの移植を導入しています。年間二百人以上に施行しています。普通は手術翌日から歩行可能で、入院は一、二週間。ほとんどの人が良好な視力を回復しています。

生活に必要な視力は人それぞれです。仕事で自動車を運転する人、たくさんの書類に目を通す人などは、早く視力を回復させなければなりません。日常生活で特に不便を感じないのなら急いで手術する必要はありません。手術の時期は、主治医と日常の生活状態や仕事・健康状態などをよく話し合ってから決めてください。



守りたい。残したい。並木・名園・名木 ⑤

高橋家庭園

○所在・大館市字谷地町8
○所有者・高橋 禎一氏
○由来、特色

この庭園は、今から二百年ほど前、江戸時代後期の寛政年間ごろに、京都の庭師の手により浄心寺庭園とともに造られたといわれています。石州流の庭園で、枯山水がほどこされています。ツガやコウヤマキ、ツツジ等の庭園木は、いずれも樹齢が高く、地を覆う老苔ともあいまって、古雅の趣を醸しています。芭蕉の寂びの境地を連想させると評されるゆえんでしょう。

庭園の手入れは、必ず出入りの職人さんに手がけてもらうとのこと。そうしないと、草と一緒に苔もはだけられてしまうからだそうです。他に見られないような見事な苔だけに、特に注意が払われています。

「大正時代ですが、大町桂月、頼三樹三郎などが家に泊って、庭を眺めながら碁を打ったり酒を飲んだりしてたようです」と高橋氏。縁側に立つと、庭の風情を愛した古人の姿が髣髴とします。

